

がんテーマに特別授業

県、理解促進へ中高6校で

県議会質疑

県議会は9日、当初提出議案などに対する質疑を行った。県教育委員会の中村充教育長は、来年度、県内の中学・高校計6校でがんをテーマにした特別授業を実施する方針を明らかにした。がんへの正しい理解を促し、命の大切さを考える機会にしていく狙い。伊吹信一委員(公明・健政会)の質問に答えた。

特別授業は、健康教育実践研究事業として、中学・高校を3校ずつ指定して行う。県立中央病院の医師や

看護師が講師となり、生徒の発達段階に応じて、がんと生活習慣との関わりなどを取り上げていく。県教委スポーツ健康課によると、事業は2016年度までの2年間で、6校で年1回ずつ授業を行う。全県に拡大するかは今後検討する。

答弁で中村教育長は「児童生徒が自他の命の大切さを知り、自己の在り方や生き方を考える態度を育成できよう、がん教育の推進に努めていく」と述べた。一方、本年度末で期限が

切れる半島振興計画について県側は、10年間の延長が見込まれる半島振興法の改正を受け、12月をめどに新計画を策定する見通しを示した。青山祐治副知事は「豊かな自然環境や農林水産物、独自の歴史・文化といった地域特性を踏まえ、半島地域の振興につなげられるものにしていきたい」と答えた。現在は津軽半島の2市5町1村、下北半島の1市4町4村が半島地域に指定されている。